異常な官公労の闘志

スト権の事実上の行使決意も考慮

春闘は厚味のある闘いに

▽その春闘は「寄ずるほどのことはない」という事なんだけどね。その言葉のウラには右往左往する事を戒めると共に「春闘は大した事はないから、一気に全経営者の力を合わせ、押し切り渡してしまえ」という覚悟がある」と理解せねばならないだろうね。

▽全くですね、でも一月二十四、五の両日東京で開催された春闘総決起大会は総評四百万労働者を中心に力強く闘いの第一歩を踏み出したからね。

▽官公労も民間産業も夫々、春闘のナミに併せて闘いを組織しているので、今年は昨年よりもっと厚みのある闘いに発展しますね。

※ぜひそうあってほしいものですね。

闘争はわれわれ民間産業と官公労との闘いの波が合うが、特に官公労は人事院勧告が既に出ているという現状なんですが、その辺を一つお願いしましょう。

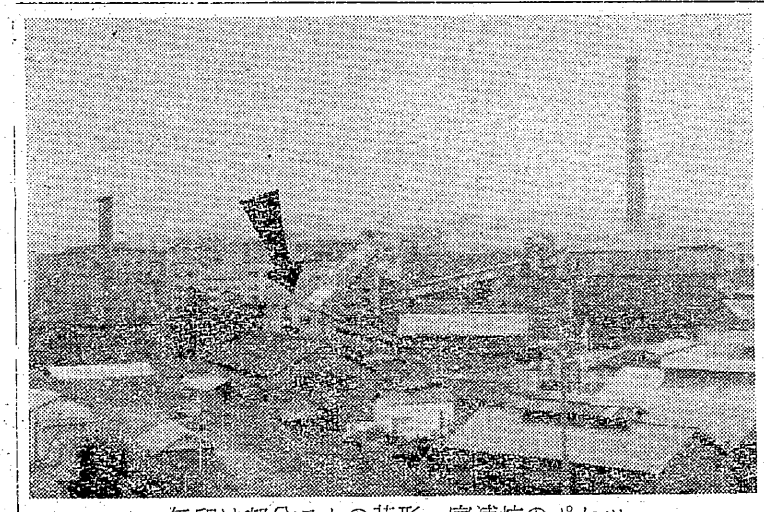
▽官公労の闘いは民間産業を上廻る位のファイトが感じられますね。それは防衛と前進の二段の構えをもって、一歩一歩前進をかち取るという考えですね、即ち人事院勧告実施反対の態度で闘っている事です。

その理由は公務員制度改悪の方向が貫かれているということで例示すれば公務員の枠を縮少し「小数有能公務員に限定する」とか俸給をせまい範囲に縮め、彼が上らねば昇給しないとか、更に給与体系の改悪、諸手当の整理統合が図られ、あくまで職能本位で生活給を否定したやり方、また職階制を非常に強化し職制を強めて組合活動への抵抗を強めようとしている。

官公労のこうした方針はそのまま春闘の方針であり、勧告の線にそった体系改悪に反対し、今の体系を守り、不合理点を逆に是正させると張切っていますからね。

▽公労協も張切っていますね。特に国鉄の場合なんか過去大きな犠牲をうけながら、それにもめげず上から下まで自信をかためているからね。

現在のような条件の下で闘っていく為には、一歩進んでスト権の事実上行使を決意する必要があるとしているからね。



矢印は部分ストの花形、宮浦坑のポケットと石炭不足の関連産業

※最後に第一次回答が出された今日、如何にして闘いを進めていくかについて。

▽石炭の需要と供給面から判断して、敵が短期決戦に出てくるであろうことは予想される。

▽全くだね、大口工場（国鉄を含む）の貯炭は約四一〇万屯で営業貯炭は二〇〇万屯を割っている（三池は二月五日現在一一、八二六屯）この数字は昨年十月末三二二万屯からすれば非常な減少である。

従って産業をマヒさせるという口実をつけて、中労委の職権介入や緊急調整などの国家権力を行使することが考えられる。

▽中労委のあっせんをうける事は即ち敵がしいたレールに闘争をのせる事になり、組合員に闘争は終ったという観念を植えつける事になる。

従って今回はこれをあくまで排除し、これまでの既成観念を払いのけなければ出来ないと思う。また会社が中労委の「性格」に便乗して、自主交渉をさけようとすることも起因しよう。従ってこのような卑劣な意図を未然に防ぐ為にも体制の確立が必要であろう。

▽昨年敵の挑発的全面ロックアウトと対決した直後開催された炭労第十五回大会、並びに全部の第十六回大会で「犠牲の多いストはいやだ、何かもっとうまい戦術を」という安易な気持を一掃しないと駄目だ。全面ストライキが一番の戦術の基盤であって、すべての戦術は全面ストがいつでも決行出来る態勢と決意の上にはじめて効果があるという事を、組合員一人々々に自覚させねば出来ないという事を決定していますからね。

▽そうだ、その態勢で逆に「長期闘争も敢えて辞せず、国家権力の介入は許さない」という腹を据えた闘いの方針に従って、国家権力の介入の下に若干の賃上げとすり替えに標準作業量の引き上げ等を許さないような長期体勢の確立と戦術の消化がなされなければ出来ないわけだ。

※いずれにしても今次春闘は、われわれ炭労が中心になって闘うわけですね。

▽そうだ、全組合員と家族がガッチリスクラムを組んで、永い間「陽の当らない産業」であった石炭産業が陽の目を見ているんだから、この遅れを取り戻す為にも徹底的に闘わねばいけませんね。

▽経営者は火事場泥的野望で「今の中に蓄め込み、今の中に生産性を向上させよう」という事に対して、われわれは「今こそ賃上げの最良の条件がある」という事でブツブツからねばいけませんね。

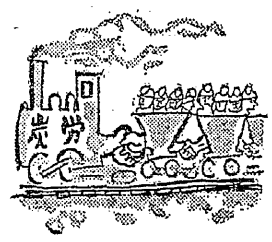
▽資本家は今盛んに彼等の団結を要求しているようですね。そして昨秋の鉄鋼の闘いに勝ったのも製鉄業者の結束の賜だと称していますね。

然し本来、好況の時ほど資本家は離れるもので自由競争の原則は企業の利潤を離れてあり得ないもので、こういう弱点を知っておればこそ、今次春闘に対して結束を呼びかけると共に自らの結束の限界を権力の介入で神おろと企図している事はハッキリしているといえます。

▽第一次回答は能率上昇の匂いがプンプンしていますね。

▽そうだね、生産性向上運動が必死の反撃にもかゝわらず、着々と展開されている情勢のもとでこれとまともにぶつかるのが賃闘だという強固な意志の統一を行い初期の目的を闘い取らねばならないね。

※どうも長時間本当に御苦労さんで御座居ました。この辺で終りたいと思います。



権力の介入を排除

長期闘争態勢確立へ

闘争日程

二月一日　団体交渉（回答要領）
二日　第四回中央闘争委員会
三日　〃
四日　オルグ出発
五日　四地方本部に於てオルグ打合せ
六日　現地に於てオルグ活動
二〇日　オルグ中央集結
二一日　戦術委員会、第五回中央闘争委員会
二二日　団体交渉
二三日　〃
二四日　戦術委員会、第六回中央闘争委員会
二五日　団体交渉（最後回答要求）各支部一斉職場大会、オルグ出発
二六日　四地方代表者会議
二七日　最後回答受領

【講座】

資本主義のからくり

奥田八二（6）

前回は米と鍬の不等価交換の話をした。その時の例は、農民が一カ月かかる米一俵と、町の鍛冶屋の十日分の生産物鍬一〇丁とが同じく商人の仲介によって四千円で売買されるというのであった。この場合もちろん米や鍬の生産に必要な諸経費はそれぞれ一カ月なり一〇日の労働の中にこめての計算なのである。

そうすると、農民は一カ月の労働と一〇日の労働とを交換するのだから、二〇日損をするわけだ。なぜ農民はこんな損になる交換をするのか。

一方では、農民が自分で鍬一〇丁作るなら一カ月以上かかるということもあろう。だから自分で鍬を作るよりも買う方が便利だし得であろう。このことは前回説明した。しかしこれは農民が二〇日分損をしなければならぬ根本的な理由ではない。鍬一〇丁が鍛冶屋の一〇日分の労働なら、米一俵が鍬三〇丁と交換されてもよいではないか。そして、もし農民が相場をよく知っていて普通の生活を営んでいるなら、こんな馬鹿げた交換は起らないのである。米一俵が一万二千円したって少しもおかしくはないし、実際四千円で仕入れた商人は一万二千円で売っているだろう。

農民が米一俵を一万二千円でではなく、四千円で売る理由はもっと別にある。相場を知らぬことも一つだが、知っていても、やむをえない事情があろう。庭先相場が四千円しかしない事情がある。第一は農民がバラバラで団結力がないこと。第二は農民が自分の労働を正当に評価する能力がないこと。第三に農民が貧乏で現金ほしさに売り急がねばならぬこと。そのほかいろいろある。

農民が貧乏であるのは、税金や小作料が不等に高い、高利貸にいためつけられ、商人に買いたたかれるという悪循環の泥沼にいるからである。ここでは特別の事情にあること—情実、個人的不作、家庭の不幸—は問題としない。

要するに、農民は封建時代に永らく培われてきた権力への無抵抗あきらめの精神、無自覚な動物、このような生活態度から抜けきれぬままに、商品交換の生活へと徐々にまきこまれていって、抜きさしならぬ貧苦のドン底に陥ってしまうのである。そこで田畑を手放し、農具や家財を売払い、農民たることをやめる、残された道は労働能力を売る＝賃金労働しかないということになる。あるいは自分で賃金労働者になってしまう前に息子や娘を賃労働者として町に出して家計を補助させる手もある。あるいは、町の商人問屋がもってくる賃仕事を副業に請負う手もある。

このようにして農民は、商品交換にまきこまれるに従って窮乏しつつ子供たちを先頭に遂には自分らも賃金労働者になっていく。

このような賃金労働者が多くなった社会は資本主義社会なのだが封建社会が崩れて資本主義社会になるにはずい分年月がかかったのである。封建時代の農民はそう簡単には賃金労働者にならなかったし、商品交換もそう簡単には発達しなかった。封建領主は自分の気にくわぬ、自分の欲望に適しない限りの商品生産も商品交換もなかなか許さなかったからである。また、生産技術もそう大々的な発達をしなかったからである。日本では封建制度が崩れるのに徳川三百年を要したといえる。

封建領主が商品生産や商品交換を制限したのは、そのために貢納物をもってきてくれる農民が疲弊し、浮浪人ができて土地が耕作されるばかりか、治安が乱れるからであった。しかし、かれらは米だけで支配者としての生活をしているわけでなく、兵器、戦用被服、居城、家具調度、日常用具、ゼイタク品、その他いろいろのものが必要で、これらは職人からとり上げるだけでは足らず、農民からとり上げた米を利用して、これらの用を足すのであるが、そのためには、職人や商人が居てくれなければならなかった。とりわけ何とでも交換できる金銀を手に入れるのに腐心した。

そのために、封建社会でも商人や金貸し業者（農民の敵）が巾をきかすことになってきた。かれらは武士や農民から巻き上げた。それだけではなく、領主さえも手伝って大々的な海賊行為にさえ出た。何がぼろいといっても、成功しさえすれば海賊ほどぼろいものはない。またこれほど無茶なものはない。公認された海賊兼務の商船隊が海軍の元祖である。

さきに、不等価交換の結果、農民がおちぶれて賃金労働者になることをのべたが、これは封建時代の農業人口や工業人口の大多数が賃金労働者になっていく様々な例のうち、ほんの一例にすぎない。

商品生産と商品交換が封建社会の内部で或程度発達した結果、不等価交換によるか暴力によるか、あるいは圧制的な法律や政治によるか、ともかく一般大衆の側からすれば不当な外部からの圧力によって、土地や道具などの生産手段を失って商品生産はおろか、自給生活さえ不可能にさせられた無産貧民の発生と、逆に貨幣や生産手段を多量に蓄積して、それを利殖に使おうとする有産者の発生とによって、資本主義が始まったのである。

資本主義の発生の仕方は各国まちまちで、どんな暴力が利用されたか、どんな圧制的な法律や政治が行われたかは一がいに言えないが、要するに、資本主義はどの国の場合でも、不等価交換の外に大衆から生活手段なり生産手段を一挙に奪い上げた結果発生したものであることは共通している。つまり、資本主義は、大衆からの暴力的な搾取からスタートしたのである。

不等価交換や暴力的な搾取に対しては、大衆は相等抵抗した。あるいは、しのび難いほどの労働によって貧乏と戦って生き抜こうとし、あるいは、暴力には一き的な抵抗もした。しかし、結局は勝てなかった。多くの人々は、それでも、他人のために働くことを拒んで、浮浪化し、乞食にまわった。けれども資本主義の初期には乞食することすら禁じられ罰せられた罰せられないまでも、乞食したあげくには盗みをし、捕えられて監獄に入れられた。そして乞食や盗人は監獄や炭坑や、その他労働者を欲する人のもとで強制的に働かせられた。このようにして、生活手段や生産手段を奪われた人々は結局、しゃにむに賃金労働者になるように仕向けられたのである。

このような、賃金労働者を作り出すための収奪と、その結果としての強制労働が、どれほどひどい搾取であったかは容易に想像できよう。それでなくても、浮浪しなければならなくなった人々は、一キレのパン、一杯のメシを得るために、どんなひどい条件にも甘んじて働き、どんなひどい鞭や待遇をもたえて働かねばならなかった。そしてこのような浮浪者がやっと働き口をみつけたとき、かれらがなぜ自分たちがこんなにひどい目にあわねばならないかについてよく考えてみることができないならば、それでもかれらにとっては雇主は命の恩人にみえ、逆に雇主にとっては、労働者は厄介な召使いにみえたであろう。封建時代のしきたりに従って、両者は新しい主従関係を結んだものと考えられるのである。

しかしそれは実は主従関係ではなくて、労働力という商品の取引、関係、いわゆる学資関係であって両者を結ぶ紐は労働力の売買、貨幣のやりとりに外ならない。

主従関係には厳しい上下の秩序の裏に血も涙も情もあるが、労資関係には血も涙も情もない。労働者はこき使うだけ使われて、いらなくなったらポイと首を切られてサヨナラである。資本家はいつでもほしいだけの労働者を「お代り」できるのである。労働者が生活に困ろうが、病気でたおれようがそんなことは資本家にとってはどうでもよい。働き口をさがし求めて使ってもらおうとしている人がよりどりいくらでもあるならあるほど好都合なのである。

資本家は労働者を虐ってやっている、搾ってやっている、と考え勝ちだし、労働者は泣わせてもらっていると考え勝ちである。首切りの自由があってもなおそうだ。だから賃金は生活ぎりぎりの所におさえられていてなお且つ恩恵的にみえる。

そこで資本主義の初期には、労働者が賃上げの要求をしたり、そのために仲間と相談したり、ストライキをしたりすることは、誰の目にも反道徳的にみえたのである。それは従者が主人に弓をひくのと同じであり、一種のムホンと考えられた。当然法律はこのような労働者の動きに対しては厳罰をもってのぞんだ。そこから、労働運動に対する「不逞の輩」の観念が生れたのである。

編集後記

「かゆいところに手が届く」ことを「世話女房」というが組合幹部も組合員に対してそこまでいきたいものである。こんどのこの「みいけ」附録も、賃闘に対して、お互が知りたい、聞きたいと思うところに、各担当部は精一杯の資料の提出を図り、三役は可能な範囲の情勢分析を行った。結果としては編集部の微力で期待出来るものにならなかったが、職場や地域の討議の参考として頂き、執行部に対して、もっと聞きたい、知りたいことを遠慮なく投稿下さい。全力を傾けて要望に添う覚悟をし、ともにこんどの賃闘を成果あるものにしたいと思う。

（平島）

社会主義
（第36号、2号月）
世界と日本……山川　均
石橋・池田財政の手品……芹　沢
社会党大会傍聴記……向坂逸郎
国鉄運賃制度の現状……橋　栄一
【社会主義講座】
農業問題と農民運動……農民運動研究会
お申込は各支部教宣部へ　定価五〇円
社会主義協会